

はじめに

本書は首都圏にある難関私立大学の入試問題を20題選んで収めてある。選んだ際の基準は、① 受験生が入学を夢みるだろう大学をものなくのせる

② 本文のジャンルや時代がかたよらない ③ の二点である。本文や設問の難易度ではないことに注意したい。

解答時間の指定

問題は指定された解答時間内で解くこと。解答時間は各大学の実際の国語の問題に与えられた時間から古文の時間を割り出している。つまり本書の解答時間である。したがって指定した解答時間は一律ではない。

入試に即した点数の評価

問題を選んだ際の基準は、本文や設問の難易でないことはすでに述べた。したがって、本書では、どのくらいできればOKなのか、「解説編」の「評価」で問題ごとに示してある。



は合格確実！



は合格の可能性あり！



は頑張り！

たとえ点数が低くても、😊の圏内なら喜んでいい。勉強は満点を目指してするものだが、結果にパーフェクトを求めてはならない。

本番に即した配点

解き終わったら、自分の實力を知るために、「解説編」の「解答」に示してある配点で点数化すること。点数は、自分が満点の何割ほど取れたのかわかりやすいように、どの問題も一律50点満点にしている。ただし、各問の点数は本書の配点の比率を想定して割り出している。

簡かんにして要ようを得た出典解説

「出典」は、「文学史」的に大切な事がらだけに留めた。本書に収められた20の問題の本文はどれもが有名出典。着実に覚えて「文学史」力を叩たたきましょう！

理解を深める本文解説

「解説編」の「本文解説」は本文のあらすじではない。**本文解釈**を読んだだけではよくわからないことが理解できるように書かれている。20の「本文解説」を読み通すと、それだけでも「古文」の理解が深まるはずである。

読解を深める

この「ことば」に注目！

本文の中から古文の読解を深める「ことば」を抜き出して解説してある。古文は文法や単語をマスターしただけでは読めるようにならない。文法や単語以外にも大切なことがいろいろある。これらを身につけていけば、読解力が深まり、内容説明・内容把握・内容合致・主語判定などの設問、つまり難しくて配点が高い設問が解けるようになる。

本文の復習がカントン

本文 & 本文解釈

学力向上には復習が欠かせない。問題を解いて、点数をつけて、それでオシマイにしてはいけない。学力を伸ばすために本文そのものと向き合おう！本書は、そのため、ページを二段に分けて、上段に問題本文をもう一度のせ、下段にその解釈をのせてある。

本文と**本文解釈**につけられた①②③④⑤……の数字は、両者の対応を示したものである。気になる「本文」の箇所が「本文解釈」のどこにあるのかスムーズに見つけられるはずだ。

本文は省略されている言葉を（ ）で補っている。（ ）の中の言葉は昔の人なら誰でも容易に補えた言葉。**本文**の文章にふれることで、古文ではどんな言葉が省略されるのか知らぬまに身につくはずだ。

本文は重要古語を太字にしてのせてある。その語義を確認するため、下段の**本文解釈**でも対応する訳を太字にしてある。太字の言葉をマスターして単語力をupしよう！

本文は本文中のすべての助動詞と主要な助詞は**赤字**にして示してある。その右横には文法的意味を記した。それらの語を文法的に確認することで文法力をupしよう！

本音の設問解説

本文 は敬語の右横に敬語の種類を記してある。敬語は意味ばかりでなく種類も大切。敬語を正しく理解してマスターしよう！

本文 は音便形の右横にもとの形を記してある。「音便」は文法問題の定番の一つ。もとの形がどう変わっているのかチェックしよう！

入試問題には受験生が解けるとは思われないうる難問奇問が出題されることもある。誰も解けない設問はないのと同じ。本書の「設問解説」は、そう割りきって、無理な設問に對しては解けなくていいと明言している。強弁しない本音の解説だからこそ、逆に「重要」とか「覚えよう」とか言われている事項は、ぜひともマスターしなければならぬ。

本書の効果的な使用法

① 解答時間内で問題を解くこと。解き終えたら「解説編」の「解答」を見て、答え合わせをし、採点をすること。

② 自分の点数が受験生としてどうか「評価」でチェックすること。そして「設問解説」を熟読すること。間違った問だけではない。正答した問の解説もしっかりと読むこと。そのことで解法のスキルが磨かれていくのだから。これで「問題」とのつきあいはひとまず終わり。

③ 次に復習！ まず、**「出典」**に目を通し、**「本文解説」**を熟読する。そして**「本文」** & **「本文解釈」**をもとに古文の文章を文章として丁寧に読み直す。この作業は、一度だけではなく、何度も繰り返しやればやるほど、君の学力を飛躍的に伸ばしていくことになる。その際、古語辞典をこまめに活用すると、より効果的であることを言っておく。

では、さあ、さっそく問題を解いてみよう！ どこからでもいい。1からでも、君の志望の大学の問題からでも。